

食料・農業・農村政策審議会企画部会（第 102 回） 議事概要

【日時】 令和 5 年 3 月 13 日（月） 15:30～17:00

【場所】 農林水産省第 2 特別会議室

【出席委員】 大橋企画部会長、浅井委員、磯崎委員、大津委員、佐藤委員、高槻委員、中家委員、林委員、二村委員、堀切委員、宮島委員、三輪委員、山波委員、柚木委員（欠席：井上委員）

【概要】

- ・ 食料・農業・農村白書骨子（案）を議題に開催。主な発言は以下のとおり。

食料・農業・農村白書骨子（案）について

（中家委員）

- ・ 食料安保の機運が高まる中、特集で食料安全保障に関して多くのページを割いたことは有り難い。
- ・ 特集内で、生産資材、飼料等が高騰し、農業現場は大変な状況にある中、「特に食料の消費者物価の上昇が顕著」とあるが、農産物は上昇していないという実感なので誤解を招くのではないか。ただし書を入れるなどにより実態に即した形で記載いただきたい。
- ・ 特集の価格転嫁について、コスト高騰分を販売価格に転嫁した割合が 45%というのは高く驚いている。どのような形で価格転嫁できているのか教えてほしい。
- ・ トピ 3 のスマート農業・農業 DX について、現場でどの程度普及・展開しているのかを、例えば数値化ができると分かりやすい。
- ・ これらの農業の実態が政策とどのように整合しているのかを詳細版では整理いただきたい。

（牧之瀬情報分析室長）

- ・ 食品の消費者物価については、担当局と調整しながら検討したい。価格転嫁の 45%の調査結果については、一部転嫁の割合が含まれており、これを転嫁できている方に計上していることを懸念されているものと認識。これも担当局と相談しながら検討したい。

（堀切委員）

- ・ 骨子案は全体的に良くまとまっており、グラフ・写真・項目立ても分かりやすくなっ

ている印象。

- ・特集の食料安保については、過不足なく表現していく必要。第1章の食料の安定供給の確保の中で、自給率・自給力と様々な言葉が出てくるが、一般の国民に理解されるかは疑問。自給率の中身や、上げるための具体的な施策、どこまで下がると安定供給が危ぶまれるのかについて、自給率を議論する意味も含めて分かりやすく表現する必要があるのではないか。

(三輪委員)

- ・非常に分かりやすくまとまっており、近年の分かりやすい白書が更にブラッシュアップされている。マスコミに取り上げられる中、一つ一つのメッセージに気を付けて出す必要がある。
- ・特集の食料安全保障については、平時と非常時といった見方があるが、食品アクセスやフードバンクについて、ストレートにメッセージを伝えるためには、重複や相反しないよう、どのような建付けで見せるかに注意いただきたい。
- ・価格転嫁の議論があったが、トピ4の鶏卵の価格の上昇については、読み手によってはネガティブに捉えられることもある。農産物だけ価格転嫁できない状況はおかしいため、生産に必要なコストが上がれば価格も上がるということを慎重な表現を使いながら工夫して記載いただきたい。
- ・トピ3の農業DXについて、eMAFFやeMAFF地図が実装されていく中、電子オンライン申請等が他省庁に比べて進んでいる。どのように進んでいるか、事例、ユーザー・自治体の声の記載があると良いのではないか。またDXのX(トランスフォーメーション)の部分が重要で、例えばDXで活用した具体的な取組等を紹介できると良い。

(柚木委員)

- ・骨子案は前回の部会の意見をしっかり取り入れた内容になっている。
- ・特集の食料安全保障について、穀物等のエネルギー向け需要が増大とあるが、本文では詳しく書いてほしい。
- ・特集の海外依存度の高い品目の生産拡大に向けた構造転換の推進とあるが、具体的な中身を本文では記載いただきたい。例えば、飼料では耕畜連携や耕地利用率の向上、バイオマス関連作物による土地利用の向上等、横展開に向けて具体的な事例も紹介いただきたい。
- ・第2章の新規就農について、雇用型の新規就農が増えているが、少し掘り下げた分析をしていただいた方が良い。また、雇用環境の整備といったことも紹介することが重

要でないか。

- ・第2章に収入保険の記述はあるが、農業者年金制度の記述がない。同制度は女性の参画、家族経営協定の関係もあるので具体的に記述いただきたい。
- ・第3章の地方公共団体で農林水産業関連の職員が少ないということはデータで示すことが重要。また、都市農業については、都市農業関連の法制度の充実や、生産緑地制度の見直し等の成果についても具体的に紹介いただきたい。

(宮島委員)

- ・骨子案は分かりやすく、丁寧に書いており、網羅的に記載されている。
- ・白書全体として、ファクトがあって、それがどのように向かっているのか、その課題解決に向けた方向性を示すことにより、記載の信頼感が得られるのではないか。
- ・特集の緊急支援について、長期的に実施するものではないので、今後これをどうしていくか、次につながる形で記載いただきたい。価格転嫁がその一つだと思うが、そのつながりを分かりやすく書いてほしい。
- ・第2章の担い手の育成については、少子化による人材獲得競争が激しくなる中、例えば新規就農者が減っていることが課題であれば、どのように解決するのかを具体的に書く必要がある。
- ・第2章の女性の働きやすい環境整備については、何が問題かが理解されていないために前に進まない部分があり、具体例等しっかり記載していただきたい。
- ・第2章の農地バンクについては、取組が進んでいるのは分かるが、このペースでいいのか問題。それに関して何が課題でどのような対応をするか記載いただきたい。

(林委員)

- ・骨子案では農地の集約化や酪農経営の構造問題を取り上げていただき感謝。
- ・今後白書の本文を作成されるときは、特集・トピックスの記載が第1～4章の関連事項にリンクさせて飛べるようにしていただくと良い。また、令和5年度の施策と令和4年度の動向の記載がリンクするようにしていただくと良い。
- ・令和4年度の動向においては、昨年白書の令和4年度の施策の効果検証が分かるような形で記載いただきたい。例えば、令和4年度施策編第3章では、担い手への農地集積・集約化の加速化、荒廃農地の発生防止等が書かれているが、それらの施策がどのような効果を上げているかが分かるように書いていただきたい。
- ・施策編では、特に施策を総合的に計画的に推進するために必要な事項として、EBPMと施策の進捗管理と評価の推進とあり、主要な施策について評価結果を施策の改善に

反映することを、目に見えるように記載いただきたい。

- ・特集の食料安全保障について、食料安全保障強化政策大綱においては、輸入原材料の国産転換、海外依存の高い作物の生産拡大等の KPI が定められているが、災害等の変動にも耐える構造的に強い経営体を進める中、構造転換対策の KPI を設けていただきたい。
- ・地域計画の話合いに、既存の農業者だけでなく、地域内外の新規参入者、法人も加わることが必要であり、マッチングデータベースを充実させ、新規参入者等の希望者が加わった話合いとなっているかを来年度の白書でチェックできるようにしていただきたい。
- ・農地の集約化の進展を示す統計として、面積規模別の担い手の増減や生産性や利益率の増減がわかるようなデータが欲しい。これにより本格的な経営体が施策によりどれくらい進んでいるかを見える化できるのではないかな。
- ・経営の効率化のためには純利益率を上げることが必要だと言われているが、その効果検証ができるような白書の書きぶりを期待したい。例えば、輸出額が増加したとするグラフがあるが、売上高とコストの比較により純利益率を見えるようにしていただきたい。
- ・トピ3の農業 DX については、DX による流通の効率化やトレーサビリティ体制の確保の進捗とその効果について可視化できるような整理をしていただきたい。
- ・特集の価格転嫁の中家委員の指摘はそのとおりで、45%でコストが上がった分全部を価格転嫁できたかのように読めてしまう。売り手・買い手の粘り強い交渉が必要な中、価格交渉の場にはいない生産者も多いため、そのような構造的な問題を分かる書きぶりをお願いしたい。

(高槻委員)

- ・骨子としては前回よりもブラッシュアップされており、内容も網羅されている。
- ・各項目で内容が連動している中で、一個一個の記載の連動性が分かりにくいいため、例えば、みどり戦略という切り口であれば白書のどの部分を見ればいいのか分かるよう、目次等を工夫していただきたい。
- ・農水省には国民向けにわかりやすく作られた多くのポスターがある。対象期間中に新しく作られたポスターの一覧を掲載すると、メッセージ性、時代性が伝えられ、良いのではないかな。白書での掲載が難しいなら、例えば Web サイト上でそういったページを紹介すると良いのではないかな。

(二村委員)

- ・特集の緊急的な支援の話があるが、あくまで短期的な支援のため、きちんと効果と見通しについて記載いただきたい。
- ・トピ1で輸出・輸入が書かれているが、それらの金額に為替変動がどれくらい影響しているのか。影響が大きいのであれば記載いただきたい。また、消費者の集まりでよく聞かれるが、輸入を多くしているのになぜ輸出にこれだけ力を入れているのかの理由・背景・目的等を書いていただきたい。
- ・トピ4で鳥インフルの関係で鶏卵が値上げしているという話があったが、加工用も値段が上がっているため食品産業全体への影響も記載いただきたい。
- ・トピ6の食品アクセスについては、買い物が不便で食品が手に入らないことと、経済的に食品が買えないことは全く別の問題であり、対策も異なっているため、これをまとめて書くのは違和感がある。タイトルを包括的に書くか、それらを分けていただくのが良いのではないか。また、フードバンクでは需要側、余剰側のマッチングが重要。地方には中間的な組織や企業、NPO によるプラットフォームができている動きもあり、そうした事例も紹介できるのではないか。
- ・農水省のHPは整理され、分かりやすいと思っているので、HPの関連へのリンクや2次元コードの誘導も本文では積極的に行ってほしい。

(磯崎委員)

- ・白書全体の骨子については良くできており、改善の跡が見られている。
- ・読み手の立場、専門家でない人にとっては内容ごとのつながりをはっきりさせた方が良いのではないか。例えば、食料安保は重要な問題であるが、そのためには生産者が生産を持続する必要があるが、企業と違い価格の交渉力はない。今回の白書では無理であっても、そのようなストーリー性が必要ではないか。
- ・状況説明はしっかりされている一方、原因とその解決の方向をしっかりと書いていくべきではないか。例えば第1章の外食産業の回復傾向については、アルコールメーカーだから分かるが、少人数で飲む、滞在時間が限られている、二次会で終わるなどのため、パブ・居酒屋回復しているスピードが70%ぐらいのイメージ。こういうところの補足説明ができればと良いなという希望。

(大津委員)

- ・従来の白書よりずっと分かりやすくなっている。
- ・読み手が専門的でないのは磯崎委員の言うとおりで、全体的に難しいというのは否め

ない。現場にとって、資材・燃料の高騰が最も関心があり、価格転嫁が難しいのはわかるが、例えば、オイルショック時にどのように乗り越えたかなど過去のことも知りたいと思った。

- ・全体的に世界情勢の内容が欲しい。食料安全保障の話をする際に、国際情勢が不安定であることは農業者だけでなく国民全体が認識している。数字だけでなく、例えば世界地図等により視覚的に見られたら良い。
- ・高槻委員のポスターを掲載するという案は、農水省の施策や何を考えているかを知るのに良い手段。
- ・特集の地域計画について、地域の話合いの実態、誰がどう参加して、話しているかが見えてこない。掲載された目標地図自体も白書で初めて見た感じであり、新規就農の人が入りにくい中、どのような人たちが話合いに参加しているのか興味がある。
- ・トピ2のみどり戦略は大きなトピックスである。生物多様性戦略についても、3月に新しい戦略が公表されるので、次の年の白書で取り上げるというよりは、新しいトピックスとして温暖化ガスの削減と生物多様性のキーワードを詳しく入れてほしい。
- ・トピ5のデジタル田園都市についても、農村での実感として理解している人は少ない。
- ・第1章の給食における国産食材を使用する県の増加について、このグラフについては是非県名も知りたいし、県産・地元産等の地産地消等がどこで進んでいるか知りたいと思う。
- ・今年度は難しいかもしれないが、高いと思うので、農家の出生率をいつかは記載してほしいと思う。

(浅井委員)

- ・骨子として良くまとまっている。
- ・地域計画の記載について、他の委員からも指摘があったが数字が少ないのではないか。
- ・所有者不明農地や未登記農地が増えており、農地オーナーや農地を相続する人は農地に関心がなくなっている。そのような人が白書を読んで関心を高めてもらうため、農地の集約化を更に前へ進めていくことをメッセージとして記載してもらいたい。
- ・掲載するグラフとして、農地バンクの取組実績で良いのだろうかと思直している。
- ・農林水産物食品の輸出額について、農産物 8,870 億円と記載して良いのか。農産物の食品の比率が高いのではないか。データの出し方によっては勘違いする人もいると思うので、食品を分けて記載することについて検討いただきたい。

(佐藤委員)

- ・前回から大分内容が濃くなっているが、誤解を招くような表現と思われる部分が何点かあった。価格転嫁や、浅井委員から指摘のあった輸出額の区分けは必要だと感じている。
- ・グラフやフローチャートのような図は見やすいが、みどり戦略で掲載されているような資料的な画像は分かりづらいので工夫していただきたい。
- ・スマート農業・農業 DX の画像も分かりやすいものにしていただきたい。

(山波委員)

- ・骨子は非常に良くできていると思う。
- ・地域計画の記載について、生産者の立場からこの地域計画に非常に期待を込めている。図中の説明だけでなく、説明文でも地元精通している農業委員、農地利用最適化推進委員の役割を織り交ぜながら文章を作っていただきたい。
- ・学校給食における地場産物の使用割合について、どの都道府県や市町村で取組が進んでいるかデータとして出していただけると有り難い。

(牧之瀬情報分析室長)

- ・特集、トピックスそれぞれについて多岐にわたる御意見をいただいた。本日各委員からいただいた御意見はいずれも重要なものと受け止めており、今後の本文案作成作業の中で検討していきたい。
- ・あわせて、白書の読みやすさや分かりやすさといった表現面や、QR コードの活用等についても御指摘いただいた。十分に留意しながら本文案の作成を進めていきたい。

(松尾経営局審議官)

- ・林委員から構造転換に関する KPI の必要性、地域計画の中で新規参入者の意見を取り入れることやそのマッチングデータベースについて御指摘いただいた。
- ・農業構造に関する KPI は、認定農業者や認定新規就農者といった担い手への農地の集積について 8 割の KPI を設定している。新規就農者の意見の取入れについては、市町村や県で相談を受けているあるいは準備研修を受けている新規就農者の意見も聞きながら目標地図を作っていく。新規就農者がいない場合は目標地図の中で調整中とし、この他データベースでマッチングができるようなシステムの開発をしているところ。
- ・これは白書にも記載があるが、面積規模別、収益性別といった様々な分析をしていきたい。1ha 以上の区画の農地がどの程度あるかについての数字はあるが、例えば 4ha

以上で一定の団地に集約化できているといったマクロの数字を出すのは難しい。

- ・ 大津委員から地域計画の話がまだ自分たちのところに来ていないという御指摘をいただいた。これまで県や市町に聞いたところでは、まず初めにモデル的な集落で議論を始め、ある程度目鼻がついたところで横展開することを想定しているとのこと。
- ・ 柚木委員、宮島委員、浅井委員、山波委員から、年金制度、雇用就農、新規就農、女性の働き方、農地関係の数字が必要という御指摘をいただいた。本日いただいた御指摘は可能な限り白書の中に反映するよう検討していきたい。

(水野輸出・国際局長)

- ・ 二村委員から、輸入に為替変動の影響がどれくらいあるのかという御質問があった。手元の数字では輸入額穀物の単価は4割から6割に大きく上がっている。円安による影響も相当あると思うが、これだけの単価の上昇から必ずしも円安だけではなく、海外市場における単価が上がっている影響もあるのではないかと。より詳しいデータも併せて本文に掲載していきたい。
- ・ 二村委員から輸出の背景や目的について御指摘があったため、本文の中で詳しく記載していきたい。輸出は国内で販売される以上に、販売単価が高くなるという面がある。それにより農家所得の向上や、需給調整、国内の価格の下支えといった効果もある。国全体で見ると、国内市場が縮小している中で海外市場が大きく拡大しており、この海外市場を目指して輸出することで、国内生産を維持拡大する効果がある。このような点で輸出の意義を説明していきたい。
- ・ 浅井委員、佐藤委員から輸出のデータが誤解を与える部分があるのではないかと御指摘をいただいた。2022年の輸出額農産物8,870億円のうち、ほとんどを食料が占めている。食料でないものでは、たばこ、花・植木類がある。たばこが120億円、花・植木で90億円。加工食品であれば5,052億円。農産物の詳しい内訳が読者に伝わるように掲載したい。

(山田研究総務官)

- ・ 中家委員から現場でスマート農業がどれくらい普及しているのかという御指摘をいただいた。トラクターでは走行経路を見える化するようなGNSSガイダンスシステムが2万8千台以上、自動操舵システムが1万7990台出荷されているといったデータがある。
- ・ スマート農業では、スマート農機やセンサーから得られたデータを分析し、経営に活用していくということが最終的に目指すところ。データを活用した農業を実践してい

る担い手の割合について、農林業センサスや農業構造動態調査で調査している。スマート農業を行ってデータを分析し経営に活用している人の割合についても分かるように分析していきたい。

(清水環境バイオマス政策課長)

- ・ 大津委員から御指摘いただいた生物多様性戦略については、3 月中に策定する予定で準備を進めているところ。本文では最新のトピックとして、しっかり記載していきたい。
- ・ 佐藤委員から、みどり戦略の画像がピンとこないという御指摘をいただいた。分かりやすい画像にするために工夫して参りたい。
- ・ 柚木委員から、バイオマス関連作物について御指摘をいただいた。実践例は難しいかもしれないが、本文にはバイオマスの項もあるため記載の仕方を検討して参りたい。

(森消費・安全局長)

- ・ 山波委員、大津委員から学校給食における地場農産物の活用状況について御指摘をいただいた。都道府県の生徒数と農業の規模に相関関係があると思うが、この調査は文部科学省が行った調査であるため、どこまで詳しく記載することができるかこれから検討していきたい。

(渡邊畜産局長)

- ・ 飼料価格が高騰しているため予備費等を使用した緊急対策を実施している。酪農の場合は粗飼料の利用も可能。自給飼料基盤に立脚した経営の方が飼料価格高騰の影響を受けにくいというような現実もある。輸入飼料に過度に依存しない経営に転換していくための対策が重要。飼料の自給率についても KPI を設定している。
- ・ 一方、鶏卵は濃厚飼料に頼らざるを得ない。輸入への依存度が大きくなる中、自給率が 95% の商品で世界的な鳥インフルエンザの流行もあり、価格が上がらざるを得ないという面があるため、このような事情についても記載したいと考えている。

(平形農産局長)

- ・ 大津委員から、飼料・肥料について戦後からどう乗り越えてきたか御質問いただいた。肥料は埋蔵量が各国に偏在しているため非常に高くなる時があるが、その後 1 年ほどで回復している。ただ、日本国内では堆肥等の利用可能な資源があるため、今後は海外依存から国内資源の利用に転換をしていくことが重要と考えている。それが分かる

ように記載していきたい。

- ・宮島委員から小麦の価格抑制の緊急対策について御指摘いただいた。非常に価格が上がった後に下がるという特殊な事情の中で緊急対策を実施した。基本的には海外のものと連動相場制をとっているため、価格転嫁を円滑に進められるよう国として十分説明していくこと、これに尽きるのではないかと考えている。

(高橋総括審議官)

- ・価格転嫁について複数の委員から御指摘いただいた。読者をミスリードすることないよう本文では詳しい説明を心掛けたい。
- ・二村委員から御指摘いただいたトピックス6について、タイトルを含めて書き方を工夫したい。
- ・フードバンクについて、食品企業とフードバンク側とのマッチングが重要だという話があった。予算事業でも支援を行っているため本文でも記載したいと考えている。
- ・磯崎委員から外食でのアルコールの需要が伸びてないことについて、御指摘どおりだと思っている。本文でどこまで記載できるか検討していきたい。

(大橋部会長)

- ・事務局から回答がなかった点として、中家委員からは実態と政策とのリンクについて、林委員からも同様の御意見いただいている。その延長線上には、浅井委員の政策の意思を示してほしいという御指摘が位置づけられると思う。
- ・白書でどこまで対応するのかということはあるが、事務局からあったように次回は講じようとする施策について議論するということなので、そのようなところで一部カバーされることもある。あるいは政策評価・政策立案の方でしっかり生かしていただくということもあるのではないか。そのような点も含めて事務局に対応をお願いできればと考えている。

以上